

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

石川県金沢市

2021年9月

SDGs未来都市計画名

金沢市 SDGs 未来都市計画

世界の交流拠点都市金沢の実現 ～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～

自治体SDGsモデル事業

市民生活と調和した持続可能な観光振興

～「責任ある観光」により市民と観光客、双方の「しあわせ」を実現するまち金沢～

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

### （1）計画タイトル

金沢市 SDGs 未来都市計画 世界の交流拠点都市金沢の実現 ～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～

### （2）2030年のあるべき姿

（金沢SDGs「5つの方向性」）

① 古くて新しく心地よいまち（自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる）② “もったいない”がないまち（環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる）③ 子供がゆめを描けるまち（次代を担う子供たちの可能性を引き出す環境をつくる）④ 働きがいも、生きがいも得られるまち（誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる）⑤ 新しいもの、ことを生み出すまち（文化や産業に革新的イノベーションが起きる仕組みをつくる）

### （3）2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 <p>産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	   	  

### （4）2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）		2030年（目標値）		達成度（%）
1	起業チャレンジ若者支援件数（累計）【9.5】	2018年 35人	2020年	54人	2024年	95人	32%
2	起業家交流事業開催数【9.5】	2018年 40件	2020年	32件	2024年	50件	-80%
3	子育てサポート人材数【1.4 4.7 4.a】	2018年 143人	2019年	181人	2024年	180人	103%
4	子育て家庭訪問件数【1.4 4.7 4.a】	2018年 未実施	2020年	12件	2024年	300件	4%
5	働く女性の交流会参加人数【5.1 5.4 5.5 5.c】	2018年 未実施	2020年	25人	2024年	120人	21%
6	正規労働者へ転換した人数 （本市の制度活用による：累計）【8.5 8.9】	2018年 100人	2020年	211人	2024年	700人	19%
7	鉄道、バスの利用者数【11.2 11.3 11.6 11.7 11.a 11.b】	2018年 117.2千人	2020年	75.3千人	2024年	122千人	-873%
8	公共シェアサイクル「まちのり」利用者数【11.2 11.3 11.6 11.7 11.a 11.b】	2018年 63,284人	2020年	103,785人	2024年	100,000人	110%
9	「公園・緑地の整備状況」に対する満足度【11.2 11.3 11.6 11.7 11.a 11.b】	2017年 42.1%	既存の公園・緑地を更新する時には、地域内の複数で検討し機能分担や再編（緑のマネジメント）を行い、地域ニーズに即した整備をすることで満足度の向上に取り組んでいる。		2028年	50%	継続
10	「自然・緑の豊かさ」に対する満足度【11.2 11.3 11.6 11.7 11.a 11.b】	2017年 48.0%	本市の自然や緑の豊かさを象徴するものである斜面緑地や河川・用水沿いの緑について、眺望景観や川筋景観として保全や新たな創出を行い魅力を増し満足度の向上に取り組んでいる。		2028年	50%	継続

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
11	金沢市全体のエネルギー消費量【7.2】	2014年 33,324 TJ	2018年 32,809 TJ	2030年 25,499 TJ	7%
12	資源化率【12.2 12.3 12.5 12.8】	2016年 11.0 %	2020年 12.7 %	2027年 26.0 %	11%

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【経済】新型コロナウイルス感染症拡大により、起業家交流事業が予定通り開催できず、当初値を割ることとなったが、オンラインでの開催等でコロナ禍に対応しながら引き続き起業支援と併せ、第4次産業革命に対応した新産業の創出を目指していく。

【社会】新型コロナウイルス感染症拡大により、2020年度は「かなざわ育みネットワーク会議」が開催できず、子育てサポート人材の新たな育成を行うことができなかったが、コロナ前の2019年において181人の実績があり、順調に子育てサポート人材の育成が進んでいると考えている。また、計画当初未実施であった子育て家庭訪問事業や働く女性の交流事業について、コロナ過においてもオンライン等で対応し、スタートさせている。

【環境】鉄道、バス利用者数においては、新型コロナウイルス感染症拡大により、バス利用が敬遠されたことから、令和2年度は、数字が大幅に落ち込んでいるものの、公共シェアサイクル「まちのり」の利用者数が大幅に増加しており、環境に配慮した移動手段の拡大が進んでいると考えている。

【情報発信・普及啓発】多くの方々がSDGsに触れる・目にする機会を増やすため、新たにCM・動画を作成、テレビ・Web・各種イベント等において、放映し、情報発信・普及啓発を行った。また、北陸SDGs未来都市フォーラムを開催し、北陸の未来都市10都市及びステークホルダーが集結し、本市含む各都市の取り組みを発信、グループディスカッションを通じ情報交換を行い、各都市との連携の強化を行った。

【ステークホルダーとの連携】パートナーシップでSDGsを推進するためのプラットフォーム「IMAGINE KANAZAWA2030パートナーズ」を設立し、21年3月末において、金融機関・マスコミ・NPOなど多様な122の企業・団体・個人の参画を得ており、21年8月現在では、150を超えるなど、今後さらに協働の輪が拡大していく見込みである。今後、活動を加速させ、また民間での自律的運用が可能となるよう、資金面・非資金面の両面での支援の制度構築が求められる。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	古くて新しく心地よいまち（自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる）	金沢産材供給量	2018年 1,380 m <sup>3</sup>			2020年 2,282 m <sup>3</sup>	2024年 2,500 m <sup>3</sup>	81%
2	“もったいない”がないまち（環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる）	ごみ排出量	2016年 173,131 t			2020年 148,294 t	2027年 151,000 m <sup>3</sup>	112%
3	子供がゆめを描けるまち（次代を担う子供たちの可能性を引き出す環境をつくる）	「みらいクリエイター」の養成・認定数	2018年 未実施			2020年 40 人	2024年 240 人	17%
4	働きがいも、生きがいも得られるまち（誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる）	男性の育児休業取得に係る事例の発信件数	2018年 未実施			2020年 1 件	2024年 9 件	11%
5	新しいもの、ことを生み出すまち（文化や産業に革新的イノベーションが起きる仕組みをつくる）	起業チャレンジ若者支援件数（累計）	2018年 35 件			2020年 54 件	2024年 95 件	32%

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

2030年まで持続的に金沢SDGsを推進していくため、全庁横断的な推進を行う「金沢市SDG推進本部」、オール金沢の官民連携組織である「IMAGINE KANAZAWA 2030 推進会議」を立ち上げ、また、パートナーシップを通じて金沢SDGsを推進していくため、SDGsを推進している又は推進していく予定等の企業・団体・個人を「IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズ」として登録し、その取組を公式HP等へ掲載、交流会の開催等を通じ、理解者・顧客の開拓、イノベーションを実現するための連携相手探しなどを可能とするプラットフォームを立ち上げた。現在、さらなる協働を進めるため、交流会を定期開催とする一方、民間の自律的な活動へのシフトを進めるため、登録事業者の一部が、交流会運営メンバーとして、当該運営に携わっている。また、組織基盤の強化や事業の加速化・自立化を目的とする民間資金の活用手法や、市民と企業、NPOのマッチング手法について検討するため、地元金融機関等との勉強会を開催している。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- ・木材の生長が進み単位当たりの材積（木材の体積）の増が見られ、また作業道の敷設等により作業効率が上がっていることや、金沢産スギ柱を使用する木材住宅の新築等へ支援する「木の家づくり奨励金」の活用等により、金沢産材供給量が順調に増えている。2021年度より、当該奨励金の内容を拡充し、新たに「木のある暮らしづくり奨励金」として、さらに推進していく。
- ・また、ごみ排出量についても順調に減少しているところである。【詳細は後述 2. 自治体SDGsモデル事業 (4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等】
- ・計画当初未実施であった「みらいクリエイター」の養成・認定を開始した。今後、①スタートアップ・新ビジネス創出②子供の独創力育成③食の価値創造の3つを柱として、2021年8月に開館した「金沢未来のまち創造館」を活用し、取り組みを加速していく。
- ・子育て世代の仕事と育児の両立支援を図るため、男性の育児休業取得促進奨励金を創設し、育児休業取得を促進している。2020年開始の制度であり、制度の認知度もまだ低いと考えられることから、周知に努め、「働きがいも、生きがいも得られるまち」の実現を進めていく。

## (4) 有識者からの取組に対する評価

- ・5つの方向性が明確にある点は好ましい。それらの方向性がSDGsに結びつきながら、総合的に達成できるように推進されることを期待する。
- ・提案時にはコンセプト的な説明が多かった印象であるが、改善されていると感じる。I M A Z I N E 金沢2030がパートナーシップ展開の基盤となっているが、徐々に活動に結びついていく印象である。自律的な活動を確かなものにするためにも、地元の金融関係者との連携が重要であると思料する。
- ・バランスの取れた計画となっている。その分核が見えない部分もある。メリハリを持って事業を進めることが望まれる。
- ・環境に関するKPIは順調に推移しているが、それがどのように事業、経済活動に展開し得るかの説明を期待する。

## 2. 自治体SDGsモデル事業

## (1) モデル事業又は取組名

市民生活と調和した持続可能な観光振興 ～「責任ある観光」により市民と観光客、双方の「しあわせ」を実現するまち金沢～

## (2) モデル事業又は取組の概要

国内外から本市を訪れる観光客が増加する中、ユネスコ創造都市金沢の根底にある自然・歴史・文化に基づく生物文化多様性をベースとした、金沢の「日本の由緒あるほんもの」の豊かさを市民・来街者の双方が理解した上で、まちの魅力を共創し、持続可能なまちを実現する。

## (3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
①-1 クリエイティブ産業創出金沢会議(EAT金沢)の開催 ①-2 金沢 AI ビレッジ等形成促進事業 ①-3 工芸の「つなぎ手」人材の育成 ①-4 工芸品の海外アート市場の開発 ①-5 国立工芸館との連携	・EAT金沢開催 ・金沢町家等を活用するクリエイター等への支援(金沢AIビレッジ等形成促進事業) ・価値創造拠点(金沢未来のまち創造館) 開館準備(→21.8開館) ・工芸の販路コーディネーターの育成 ・新たな需要の開拓(国際的マーケット等での発信) ・国立工芸館開館(20.10)	海外見本市出展等への支援件数(累計)	2018年3月 48 件			2020年 56 件	2022年 60 件	67%
①-1 大学生向け文化体験プログラム ①-2 金沢・建築キッズプログラム ①-3 宿泊施設や食のリアプリーの推進 ①-4 アウトサイダー・アートの魅力発信 ①-5 共生社会ホストタウン推進 ①-6 まちなかの歩行環境の再整備	・建築文化の発信(アーキテクチャーウィーク(金沢・建築文化会議、建築キッズプログラム(ワークショップ、スタンパリー)) ・宿泊施設改修事業費補助 ・知的・精神障害のある方等への創作活動支援するOUT SIDER ART PROJECTの始動 ・心のリアプリーフェスタ開催 ・リアプリーガイド・動画制作	中心市街地の市文化施設の利用者数	2018年 339,853 人			2020年 171,206 人	2022年 393,000 人	-31%
①-1 宿泊施設や飲食店での食品ロスやプラスチックの削減、加賀野菜など地産地消の展開 ①-2 「木の文化都市・金沢」の創出 ①-3 用水、庭園などによる、水と緑のネットワークづくり ①-3 生物文化多様性の保全・啓発 ①-4 金沢にふさわしい次世代交通サービスの検討	・金沢市食品ロス削減推進計画策定 ・金沢市地球温暖化対策実行計画策定 ・木の文化都市を創出する金沢会議(「木の文化都市・金沢」の継承と創出に向けての提言書) ・豊かな緑化空間の創出(水と緑のネットワーク) ・金沢市次世代交通サービスあり方検討会(→21 金沢MaaSコンソーシアム設立)	ごみ排出量	2016年 173,131 t			2020年 148,294 t	2027年 151,000 t	112%
		里山管理活動支援団体数	2018年 1 団体			2020年 2 団体	2022年 4 団体	33%

## (4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

【経済】新型コロナウイルス感染症拡大により、海外で開催される国際見本市への出展支援は2020年においては、実績がなかったものの、概ね目標どおり推移している。2021年8月に開館した「金沢未来のまち創造館」等とも連携し、引き続き、新たな産業の創出や販路開拓、工芸の継承・発展を推進していく。

【社会】中心市街地の市文化施設の利用者数について、新型コロナウイルス感染症拡大により、訪日外国人観光客が大幅減となり、また文化施設の臨時休館や外出自粛の影響により、国内からの来街者も大きく減少したことから、大きく減少している。【詳細は後掲】

【環境】食べ物の“もったいない”がないまちを目指し、新たに金沢市食品ロス削減推進計画を策定。いぬ・食べきり推進店の登録制度(R2末147店舗)による飲食店等での食べきりの推進に向けた意識啓発や市のフードドライブ常設会場を増設、(3→4)また地域における窓口(公民館等)の支援を行い、持ち込み量も増加するなど、市民の意識の醸成も進んでおり、ごみ排出量も順調に減少している。また、高齢化する森林所有者に代わり、環境意識の高い地域団体や企業、NPOが森林整備に取り組むケースが徐々に増えている。当該団体へ、森林所有者とのマッチングや安全な作業方法の指導などを支援していく。

## 2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

## (1) 三側面をつなぐ統合的取組名

消費型観光から責任ある持続可能な交流型観光へ ～「金沢SDGsツーリズム」の推進～

## (2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

金沢の魅力を磨くことに加え、各種事業者と連携し、まちのバリアフリー化や低炭素化を進め、「SDGsツアー」が可能となるまちをめざす。また、市民が「責任ある観光客」と交流することを通じて、わがまちの価値や課題を再発見し、責任と誇りを持って、新たな魅力を創出するプレーヤーとなることをめざす。

## (3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇔環境	経済⇔社会	社会⇔環境
<p>【経済→環境】 「金沢SDGsツーリズム」の推進により、外貨の取込みや責任ある観光客との交流が進むことで、経済面で、新たな産業の創出や金澤町家の付加価値の向上がもたらされ、環境面において循環型社会が実現するという相乗効果が創出される。</p> <p>【環境→経済】 「金沢SDGsツーリズム」の推進により、食品ロスの削減、脱プラ、地産地消や、生物文化多様性の保全等が進むことで、環境面で、暮らしやすさ、滞在のしやすさが向上し、経済面において金沢に移住・滞在する、クリエイティブ人材をはじめとした多様な人材の呼び込み・増加、という相乗効果が創出される。</p>	<p>【経済→社会】 「金沢SDGsツーリズム」の推進により、外貨の取込みや責任ある観光客との交流が進むことで、経済面で、伝統産業の発展や新たな産業の創出による豊かさがもたらされ、それが文化への投資に回り、社会面において文化が維持・継承・発展するという相乗効果が創出される。</p> <p>【社会→経済】 「金沢SDGsツーリズム」の推進により、責任ある観光客との交流が進むことで、社会面で、市民が金沢の歴史・文化の価値を再認識し、磨き高め、多様な文化を維持・発展させることにより、経済面において、文化の刺激を活かしたイノベーションが生まれる、という相乗効果が創出される。</p>	<p>【社会→環境】 「金沢SDGsツーリズム」の推進により、観光客の受入環境の整備が進むことで、社会面で、まちなかの歩行環境の充実がもたらされ、環境面において自動車の使用頻度の減少による低炭素社会の実現という相乗効果が創出される。</p> <p>【環境→社会】 「金沢SDGsツーリズム」の推進により、「責任ある観光客」受け入れのために、次世代交通サービスの発達、地産地消、生物文化多様性の保全等が進むことで、環境面で、暮らしやすさの向上がもたらされ、社会面において、市民のQOLが向上し、責任と誇りを持って金沢の価値を磨き高めている市民が増加する、という相乗効果が創出される。</p>

## (4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】県外からの金澤町家購入・賃貸成約件数（累計）	2018年 14件			2020年 16件	2022年 19件	40%
2	【環境→経済】住宅支援制度の活用による県外からの移住者数（累計）	2018年 42件			2020年 159件	2022年 82件	293%
3	【経済→社会】中心市街地の市文化施設の利用者数	2018年3月 339,853人			2020年 171,206人	2022年 393,000人	-317%
4	【社会→経済】新製品開発・改良製品数（累計）	2018年3月 80件			2020年 126件	2022年 95件	307%
5	【社会→環境】温室効果ガス排出量	2014年 3,522千tCO2			2018年 3,231千tCO2	2030年 2,594千tCO2	31%
6	【環境→社会】市外へ就職する学生数	2018年 2,000人			2020年 2,000人	2022年 1,900人	0%

## (5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

重要な担い手である観光事業者向けに、SDGsツーリズムについて理解を深め、自分事としていただくことを目的に勉強会・講演会を開催し、約100名が参加、持続可能な金沢観光のあり方を議論し、金沢らしい持続可能な観光を実現するための「8つのアクション」を策定した。

金沢と親和性の高い欧米豪インバウンドや国内個人旅行者に加えインセンティブツアーや修学旅行の誘致に成果をあげる「SDGs体感ツアー」コンテンツの開発のために、IMAGINE KANAZAWA2030パートナーズ会員対象の「石川の朝とれもんプロジェクト」見学ツアーや旅行業関係者や通訳案内士等、インバウンドの専門家対象の金沢SDGsモデルツアーを実施した。今後求められている旅の一つの形であると、非常に好評であり、フィードバックを今後の取組に活かしていく。

民間事業者の「SDGs体感ツアー」造成を目指し、観光事業者の先導的な取り組みを支援するため、公募型の補助事業を実施し、用水のまち金沢の魅力を発信するオンライン・工体験プログラム、金沢町家のサステナブル備品整備への支援、伝統工芸の体験を通じたSDGsを認識するプログラムなど14件を採択した。これらの先導的な取り組みが継続し、また他事業者へ波及し自律的好循環の形成となるよう、引き続き、観光事業者の先導的な取り組みを支援するとともに、金沢市観光協会や地元宿泊事業者等のステークホルダーと協議し、SDGsツーリズム推奨制度の検討・構築を進めている。

## (6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

・金澤町屋や住宅支援制度の活用により、県外からの移住が順調に進んでおり、また市外へ就職する学生に関しても増加を抑制できていると考えている。引き続き金沢の金澤町屋の付加価値や暮らしやすさ、滞在のしやすさの向上など魅力の向上に努め、金沢に移住・滞在する、クリエイティブ人材をはじめとした多様な人材の呼び込み・増加を進めていく。

・中心市街地の市文化施設の利用者数について、新型コロナウイルス感染症拡大により、訪日外国人観光客が大幅減となり、また文化施設の臨時休館や外出自粛の影響により、国内からの来街者も大きく減少したことから、大きく減少している。コロナ禍に対応しながらも、大学生を「金沢文化芸術発信学生大使」に任命し、金沢の文化の魅力をSNSで発信してもらう取組や、AR技術を導入した施設において親子を対象とした誘客施策を実施することに加え、令和2年10月に移転開館した東京国立近代美術館工芸館と連携したツアー等の開催により、文化施設の利用者数の増加につなげていく。

・温室効果ガスの削減については、再生エネルギー等導入支援や公共交通の利用と歩けるまちづくりの推進など多角的な取り組みを行っており、その効果が出てきていると考えている。2020年度は、温室効果ガスの削減による持続可能な社会の実現を目指し、新たに金沢市地球温暖化対策実行計画を策定したところであり、市民・事業者・行政がそれぞれの役割と責任を持って温室効果ガスの削減と気候変動への適応に取り組むとともに、各主体が連携・協力した取り組みを進めることにより、金沢らしい持続可能な社会の実現をめざしていく。

## (7) 有識者からの取組に対する評価

・全体では様々な取り組みが具体的に進んでいると思われるが、その中の責任ある持続可能な観光の位置づけを明確にすることが望まれる。

・コロナ禍の影響が大きかったようであるが、オンラインやデジタル技術を活用したSDGs実現に向けた取り組みをより推進されることを期待する。